

平成30年度 後期学校関係者評価書

平成31年1月17日

南アルプス市立白根源小学校関係者評価委員会

記載責任者 教頭 小西一彦

【第3回 学校関係者評価委員会】

1 実施日：平成31年1月17日(木) 12:20より

2 会場：南アルプス市立白根源小学校 会議室

3 参加者：学校関係者評価委員

学校関係者評価委員		
前源地区連合自治会会長 甘利 元	主任児童委員 矢崎 栄子	元PTA役員 井上 範子
元PTA役員 深澤 リエ	元PTA会長 櫻本 寛一	源地区連合自治会会長 塩谷 正夫
源地区育成会長 小澤 順司	PTA会長 小林 正紀	
校長 加賀美 敏	教頭 小西 一彦	教務主任 相川 也寸志

出席者 計9名
欠席者 計2名

4 学校側から提案された内容

学校関係者評価委員会次第

◇ 次 第

進行・記録：教務主任（相川）

1 はじめのことば	教務主任（相川）
2 学校長あいさつ	校長（加賀美）
3 学校評価結果及び概要説明	
①自己評価（教職員）結果	教頭（小西）
②児童アンケート結果	教頭（小西）
③保護者アンケート結果	教頭（小西）
④質疑応答	教頭（小西）
4 意見交換（参加者からの提言等）	座長：教頭（小西）
5 おわりのことば	教務主任（相川）

5 協議内容・意見

○南アルプス市立白根源小学校後期自己評価書に関する考察

教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証

(1) 学校側から提案された後期全体評価考察

① 後期 自己評価 全体評価

評価は、前期評価同様

Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない とし職種によってあてはまらない場合もあるので Eあてはまらないを設けてある。

全体を見てみると、前期同様、集計結果からは、全ての項目に対して、肯定的な意見が大半を占めている。2学期以降もグランドデザインを意識して学校教育目標に近づけるように取り組むことができたのではないだろうか。

細かくデータを分析していくと、

1学期よりも向上した項目は、6項目です。

- 1「学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。」22.2%向上
- 4「他の職員と、相互理解・信頼関係を深め、教育活動にあたっている。」5.5%向上
- 8「適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている」16.7%向上
- 11「家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。」66.7%向上
- 13「生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。」50%向上
- 15「保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている。」44.4%向上

グランドデザインが職員に意識化され、様々な教育場面で取組が行われている。学校行事や授業場面で職員が充実した取組を児童とともに進められたといえる。また、それらの教育活動が相互理解・信頼関係を保ちながら進められたことは大きな前進である。そのために、校務分掌の複数化などの取組をこれまでも進めてきたが、相互に相談し、計画、実行できる土台が築かれつつあるといえる。

危機管理について意識が高まってきた。小さなことでも共有化、意識化、日常化の流れを考えて、周知活動を進めてきた。今後も継続し、未然防止が当たり前になる学校にしていきたい。また、生指・特別支援教育体制が整備され、重要性が認められてきた。市教委、SC、SSWなどの関係機関と連携し、その取組を通じて子どもたちに良い方向の変化が見られた結果だと考えられる。すぐには効果はでないかもしれないが、その積み重ねによって変容することが分かってもらえただけでも、今後の教育に大きな期待が持てる。

保護者・地域との連携に関しての向上も、職員が寄り添い、相手の気持ちをよく聞き、対応できてきた結果ではないか。要求に対応することは難しい事ではあるが、寄り添うことで相互に解決の糸口を見つけ、それぞれにできることに取り組むことが、結果的には子どもの成長につながっていく。保護者アンケートにもこうした取組の評価が表れているだけに、一緒に育てていくスタンスを大事にして今後も取り組んでいきたい。

また、逆に1学期より低下した項目も、6項目です。

- 2「マネジメントサイクル（PDCA）で、常に改善を図ろうとしている。」27.8%低下
- 3「校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。」11.1%低下
- 5「人事評価制度や各種研修を通し、常に自分を磨き、専門性を高めようとしている。」61.1%低下
- 6「教育公務員として危機管理（防災・防犯・個人情報・綱紀保持）を意識し、教育活動等にあたっている。」11.1%低下
- 7「チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。」22.2%低下
- 9「基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。」22.2%低下

大きな課題としては、新学習指導要領でめざしていく学校教育内容を明確にしていく必要性がいくつかの項目に見られる。カリキュラムマネジメント、マネジメントによる組織体制、教師の資質向上、チーム学校、社会に開かれた教育課程等が今後の学校教育の軸となり、これまでの学校教育の体制を改善しなければならない。一例として、「何を知っている、何ができる」といった知識伝達型の一斉指導からの脱皮が挙げられる。（10「関わりあって共に学び、高め合う」授業づくりに努めている。も前期後期ともに50%の数値からもその悩みが表れている。）

南ア市で10年以上進められている「学びの質の向上」はその先取りであり、知識や技能を日常生活で使用できることや思考力・判断力・表現力等の資質能力が初めて体験する状況に出会ったとしても、これまで培ってきた力で切り開くことができる。また、他者の考え等で自分考えを見直し、さらに考えを深め広げて幅広い人間性を育てていくことで、自立への道を切り開いていかなければならない。（指示待ち人間からの脱出）そのために学校教育をチェンジする必要がある。

まだまだ完全には浸透していない状況が評価の中では、明確になっているが、校内研究会の中で多くの講師を招聘し、積極的に「学び合い」を追求してきたことは、今後の職員の指導に必ずつながっていく。実際に授業を観察すると、やまなしスタンダード:P34参照を意識した授業や地域の人材活用（ゲスト授業）、物的資源（地域資源）を活用し、幅広い体験学習を通して子どもたちに伝えようとしている。こうした積み重ねが子どもたちの学習意欲につながり、習得・活用・探求の学習プロセスの中で、学習や日常生活の中で課題を発見し、課題を解決していく姿勢へと変容させていくのではないだろうか。白根源小学校の「学び合い」による授業の形を整え、担任が自信を持って臨めるようにしていきたい。それが、きっと子どもたちの「わかる・楽しい授業」につながるに違いない。

「チーム学校」の背景には、保護者、地域との連携、さらに関係機関との連携がまず第一に思い浮かぶと思われる。市との連携（心理士による児童観察、コンサルテーション:P34参照、教育相談）でイメージはできているし、その連携の効果の大きさも理解しているといえる。また、SSWをはじめとした関係機関、医療機関との連携で教師の専門外による連携が如何に大事であり、子どもたちを支えてくれていることも感じていると思う。（生徒指導、特別支援教育体制については100%の結果が出ている）これから大事なのは、連携で任せてしまうのではなく、職員もそこから学び、その手法を日常の指導に生かしていくことである。

よって、教師の資質向上によって一人でも多くの子どもたちを支えていくことが大事である。目指していくべきところは、「学校中が教室」「全職員が担任」という意識を共有し、それが当たり前になることである。こうした姿勢は、日常生活の児童に対する共感的な指導につながる。子どもたちも様々な職員にSOSをしている光景が見られ、職員の対応も子どもに寄り添って、連携しながら指導にあたり、学校中の雰囲気もよくなっている。こうした状況が安心感をもたらしめていると感じる。関係機関の方々もその部分をよく評価してくれている。関係機関との連携から、子どもや保護者への対応、体制の在り方、役割分担の効果等を職員が学び、日々の指導に生かしていきたい。子どもとの関係性がよくなることで、学力向上への第1歩になるだけに、これからも努力を子どもたちのために続けてほしいと願っている。

② 後期児童アンケート 全体評価

1学期同様、18項目中全てが肯定的な意見であった。
そのうち前期よりも肯定的で数値が上がったのが 1番、8番、9番、10番、11番、12番の6項目であった。
前期より改善した項目は
1「学校が 楽しいですか。」 前期(9.7%)→後期(8.8%)であった。
しかしながら、依然10名ほどの子どもが否定的である現状に対して、調査等を活用しながら、個別に原因を探りながら対応したい。また、2番「学校の授業がわかりますか」についても2-3名がC評価であるので、個別に、丁寧に、きめ細やかな学習を進め、状況に応じては補助体制も視野にいれて対応していきたい。

逆に、C評価+D評価が10%以上を課題として挙げてみると、
3「授業中に 質問や 意見を いいますか。」36.9%
4「学校の 決まりや 約束が 守れていますか。」11.4%
5「家で 家庭学習 (自主学習・宿題) を していますか。」14.9%
7「学校では ほかの学年のお友だちと 遊ぶことができますか。」23.7%
8「こまった時に 話のできる友だちが いますか。」13.2%
14「地域の人と 出会ったら あいさつを していますか。」10.5%
16「家の人と 学校でのことを 話していますか。」19.3%
17「家の人と さ이가い(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。」39.5% 以上8項目が該当した。

「3番、7番、8番、14番、16番、17番」の6項目については、年間通して課題のある項目であることが分かる。

肯定的な意見(A+B)が、1学期より下がった項目は11項目あった。

- 3「授業中に 質問や 意見を いいますか。」
- 4「学校の 決まりや 約束が 守れていますか。」
- 5「家で 家庭学習 (自主学習・宿題) を していますか。」
- 6「クラスに なかよく遊ぶ 友だちが いますか。」
- 7「学校では ほかの学年のお友だちと 遊ぶことができますか。」
- 13「家の人と あいさつをしていますか。」
- 14「地域の人と 出会ったら あいさつを していますか。」
- 15「朝ごはんを 食べて 学校に きますか。」
- 16「家の人と 学校でのことを 話していますか。」
- 17「家の人と さ이가い(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。」
- 18「わかばのお友だちと 仲良く遊ぶことができましたか。」以上の項目である。

そのうち5%以上、下がったものは、6項目あり、

「3番(10%)、4番(5%)、5番(8%)、7番(6%)、16番(6%)、17番(11%)」であった。

3番「授業中に質問や意見を言います」では、本校児童の課題である消極的な傾向が見られている。
また、17番「家の人と さ이가い(地震・台風・火事など)が起こったときのことを話していますか。」では、1学期には源防災の日が設定されていただけに、意図的な取組がないとやはり意識が低下してしまうようだ。今回の結果では、規範意識、家庭学習、友だちとの対人関係で数値が低下してしまったのは残念である。

Q-U検査や学級検査等でしっかり分析し、児童の気持ちを寄り添う教師側の姿勢がより一層大切になってくると思う。また、校内研究・生徒指導・特別支援教育体制で児童理解への取組、一人ひとりの言語活動、全校における言語活動など表現力等の育成を図る必要がある。課題を明確にして、3学期の取組を充実させ、新学期にいいスタートができるようにクラスの雰囲気、学校全体の風土づくりに力を入れていきたい。

③ 保護者アンケート全体評価

保護者アンケート結果からはほぼ肯定的な結果が得られた。13番(84.5%)と16番(77.3%)を除き全て85%以上の肯定的な意見で占められている。

肯定的ではない(C+D)意見において10%以上を占める項目を挙げてみると、

- 8「子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。」11.8%
- 9「子どもは、学習が分かっているように感じる。」11.8%
- 11「子どもは、学校の様子をよく話してくれている。」14.5%
- 12「子どもは、家庭学習(自主学習、宿題等)によく取り組んでいる。」11.8%
- 13「子どもは、家でも地域でもよくあいさつをしている。」15.5%
- 16「家庭学習(自主学習・宿題)の取組に、関わっている。」22.7%
- 18「ゲームをする時間、テレビを見る時間、外出時などにルールを決めて取り組んでいる。」12.7%
- 20「子どもの様子の変化に注意を払い、すぐに先生に相談している。」18.2% 以上の7項目が該当する。

特に

- 11「子どもは、学校の様子をよく話してくれている。」
- 12「子どもは、家庭学習(自主学習、宿題等)によく取り組んでいる。」
- 13「子どもは、家でも地域でもよくあいさつをしている。」

については、児童アンケートでも1学期より下がった項目と一致している。

「家庭学習」については児童は8%、「家の人と学校のことを話している」は6%落ち込んでいる。

家庭学習においては、まず復習を確実にし、基礎的な部分を押さえていくことが必要である。定着している自主学習をさらに確実に進め、予習や調べ学習などに発展的につながる工夫もしていきたい。大事なことは学習に向かう姿勢であり、自ら学んでみようとする力を身につけさせていきたい。

また、あいさつでは地域のあいさつ運動の取組もありながら確かな手応えがない。自信を持って他者に伝える意志が必要だろう。そのために学校においては表現力の育成、家庭では基本的な生活習慣が必要になるのではないかと。家庭での生活状況が多様化しているだけに、家庭-地域-学校の連携を具体性を持って臨まなければならないだろう。家庭を含めて、他者との関わりが希薄化されつつあるだけに、ソーシャルスキルを意図的に子どもたちに指導することとともに保護者にもその必要性を伝えていかなければならないだろう。

さらに、気になるのは「学校に行くのを楽しみにしている」の項目である。児童アンケートでは、改善しつつあるものの、まだまだ家庭で流る傾向は存在しているのではないだろうか。(10名程度)であれば、自己肯定感の向上、自立する力を育てていかなければならない。こうした部分も家庭との共有・連携の中で絶えず情報交換しながら育てていく必要がある。

(2) 意見交換(参加者からの提言等:質問を含む)

① 質問

自己評価における全体評価の向上した項目8番と低下した項目5番の項目内容が同じですが、どうしてなのでしょう？



作成上のミスで、低下した8番の内容が同じになってしまいました。

*「適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。」でした。→了承

② 意見

意見1

「学校は楽しいですか」が100%肯定的でないのは、信ぴょう性があるといえる。100%「学校が楽しい」という結果が出てしまうと、逆に信じがたい結果と受け留められてしまうので、今回の結果は、良いのではないか。

*統計的にも100%は信ぴょう性が薄くなることは知っていますが、取組段階では子どもたちが100%学校が楽しいと感じてくれるように職員は取り組んでいます。しかし、こうして分析結果をしっかり受け止めて頂けるとはありがたいです。ありがとうございます。

意見2

児童アンケートを実施するタイミングは、よく考えなければならないだろう。マイナスな状況で実施すれば、結果は良くないだろうし、そのまた、逆も予想されるだけに、こうした状況も視野に入れながら実施することも配慮しなければならない。

今回の集計の仕方は、肯定的(A+B)、否定的(C+D)で分析されているが、見方を変えれば、Bも何らかの否定的な部分も隠されているので、肯定的(A)否定的(B+C+D)の視点で分析もできるのではないだろうか。満足している児童と満足していない児童の分析という形もあり得るかもしれない。

*確かにタイミングによる影響も考えられます。期間は決めていましたが、こうした視点での留意点も考慮しながら実施していくことも大事だと思います。今後の実施に生かしていきたいと思います。

*満足感という視点も厳しい視点として大いに有りだと考えられます。こうした視点も常に念頭に置きながら分析していきたいと思います。良い勉強になりました。

意見3

「学校は楽しいですか」等様々な項目に対して、1, 2学期通してCやDを記入した子はいるのですか？

*調べれば分かりますが、そこまでは結果として出してありません。担任は打込作業をしているので、把握しています。アンケート結果を生徒指導や学級経営に活用していきたいと思います。

意見4

自己評価1番「学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。」の質問は、職員は意識していることは当たり前のことであるので、質問する自体が失礼ではないか。初任者ならば、意識してもらうためにも必要だと思うが。

*意識してもらう意味でも項目に入れてありますが、確かに専門職に対しての質問としては失礼だと受け留められてしまうかもしれません。項目内容も目的を明確にして提示することは大事だと感じました。

会社等では、職員の目に留まる場所に目標を掲示して、常に意識させている。社員の意識付けが大事です。また、掲げるだけでなく、常にフィードバックさせていくことが目標達成のためには必要です。さらに、進捗管理が必要であり、「今、どのような状態になっているのか」をスピード感を持って、フィードバックさせていながら、取り組ませていくことが大事です。

*その通りだと思いました。学校も職員が自分の計画を、どの段階まで来ているのか把握しながら、取り組むことは大事だと思います。出来ないならば、相談しながら、改善し、次の目標、手立てを考え進めていくことが必要です。こういう意識を学校でも取り入れ、職員とともに子どもたちを育てていきたいと思っています。

意見5

校長先生や教頭先生が登校を渋る子に対して、毎日のように朝から対応して下さる姿に感謝しています。その子たちが、しだいに自立する姿にうれしく感じていました。校長先生や教頭先生が自らこうした取り組みを進めていることに、きっと職員も身近な存在として信頼していくのではないのでしょうか。子どもたちも同じように「一生懸命に自分たちのことを見ていてくれる先生がいるんだ」と感じているのではないのでしょうか。

＊ありがとうございます。目の前に困っている子が一人でもいたら手を差し伸べていくことが当たり前だと思っているので、これからも、「全職員が担任」という意識で私たちも取り組んでいきたいと考えています。

学習発表会では、子どもたちが中心になり、よく取り組んでいたと感じました。また、ドラムをたたく子どもがいましたが、教え方によっては子どももここまでできるんだと驚かされました。音楽な苦手な子どももいるでしょうが、「これならばできる」「この場面なら できる」というように良さを引出していく指導が必要だと感じました。さらに、6年生が地域の歴史を伝えてくれたことは本当に良かったと思います。こうした学習が地域を大切にすることにつながるのではないのでしょうか。

＊ありがとうございました。こうした意見をいただき感謝します。学校行事が子どもたちの力を引き出すきっかけになると本当に良いと思います。自信を持ち、他の場面でも少しずつ力を発揮できるようになる事が大事だと考えています。地域の歴史も文化財課や地域住民の協力を得て、ここまでやって来れました。

地域の連携、協働によって、子どもたち、そして、学校、家庭はつながっています。支えられて、学んできたことは成長するにしたがって、地域の一員として地域を支えていく力になっていきます。そして、小学校で培われた地域への想いが、次の世代に引き継がれていきます。これからも様々な学習場面で、地域の人たちの力や地域の資源を生かしながら「地域」を意識させていきたいと思っています。

意見6

全体的に本当によくやっていると感じます。防災に関しては、「源小防災の日」が設定されていることは、みんなが意識していくためにもいいことだと思います。2学期にも防災に関して、チェックしていける取組があるとさらに良いと思います。(ただ、いろいろな計画があるので、難しいかもしれませんが)保護者アンケートにコメントを書いて頂けていることもとても良いと思います。保護者の意識も高いことを感じますので、貴重な意見を是非生かしていただきたいと思っています。

＊防災に関しては、なかなか2学期以降も意識を高めていくことは正直難しく検討してきました。確かに家庭でチェックできる取組があるといいかもしれません。9月には避難訓練のみならず、家での地震備え、発生した時の対応などの約束などをチェックするなどのチェックを親子で振り返ることのできる方法などを検討し、来年度への課題としていきたいと思っています。保護者の意見もとても重要なので全てをデータとしてまとめています。おっしゃる通り、この声を生かしていきたいと思っています。

意見7

家庭学習がとても大事だと日頃より感じています。初歩的な学習を定着させていくことが必要だと思います。わかって、自信を付けさせ、やる気を育てていくことが大事だと思います。我が子の成長や周囲の子どもたちの様子を見て、感じています。

＊家庭学習はこれからますます重要視されていきます。学び方にも知識・技能の習得がまず土台として築かれていることが、話し合い等の言語活動に生かされていきます。子どもたちの力に結びつくように家庭との連携の中で取り組んでいきたいと考えています。

(3) 総括

学校関係者評価委員より今回も貴重なご意見をいただきました。

事前に資料を配付し、読んで頂けていたので、自己評価、児童アンケート、保護者アンケートに関しての分析に関して、様々な角度で意見を頂くことができ、ありがたいと同時に、私たちも、学ぶことができた。アンケート自体、統計上、難しいとは思っていたが、やはり、基本的なことをしっかり押さえ、学校が何のために実施するのか、その目的を明確にして、必要項目を検討していかなければいけないと感じた。今後もこの意見を大事にして学校評価をより真に生かせるものにしていきたい。

日頃の職員の努力をしっかり見て頂けていることをうれしく感じた。管理職だけでなく、職員の見えないところでの努力をこつた地域の人たちが評価してくれることは職員の励みになると思う。現在は、「地域に認められて、初めて一人前の教師となる」と言われている。その意味でも、職員の努力が認められることは一人ひとりの大きな自信となる。

最後に、「社会に生きる人材を育成するためには、どうしていくのか」が話題となった。学校が知識伝達型から他者との関わりで考えを広め、深めていく学び合い型に移行する中で、実社会の様子について意見交換がなされた。その中で、「世界と向き合うためには、プレゼン能力があり、自分たちの想いを伝えていく力が必要であり、やはり、知識をただ知っているだけでは対応していけない。」「相手の意図を汲み取りながらも、自分たちがどうしていきたいかを伝え、理解してもらう力が社会では必要である。」「実際に指示待ちで、仕事が次に発展していかない若手職員が最近多い。会社としては、幅広く考えていける人材が必要である。」「厳しい場面に耐えられない職員が多くなっているだけに、強くくらいついていける気持ちが育ってほしい」など現状を話して頂けた。

こうした実際の状況を聞いていると、新学習指導要領に記載されている「社会に開かれた教育課程」「資質・能力の育成」「主体的、対話的で、深い学び」が如何に必要なかがよく理解できた。山梨県の振興計画の基本理念「未来を拓く「やまなし」人づくり」基本目標①「夢と希望に向かって自ら学び 考え 行動する「たくましい力」を育てる」②「他者を思いやり 社会の絆を深める「しなやかな心」を育む」がなぜ示されているのかがよく理解できた。特に世界と向き合うための人材については、しなやかな心の育成「自分や他者の多様な生き方や考え方、存在を認め合う柔軟な心(自他を敬愛する心) 困難や挫折に直面しても、粘り強く最後まで諦めない心」が実際の場面に必要であることを痛感させられた。

私たちは、こうした先を見通し、小学校段階で身に付けさせることをよく検討し、着実に取り組んでいかなければならない。そのためにも、学校が閉鎖的にならず、多くの家庭、地域住民に見ていただき、理解を深め、さらに、連携・協働できる地域に根ざした学校を目指していかなければならない。

来年度は学校関係者評価委員会での意見を生かしていけるように、子どもたち一人ひとりがしっかりと気持ちをあいて伝えていける表現力をクラスのみならず、学校行事などでの場面を設定していきたい。また、日常生活で、理由をしっかりと伝えていけるように、国語科の学習を中心にどの教科にもつながっていける言語活動を進めていきたい。

今回のアンケートの結果や学校関係者評価委員会の貴重な意見を今後に生かせるように、PDCAサイクルで改善していきたい。

(4) 今後の課題

① 校内研究を中心とした研修の充実と授業改善

白根源小学校の「学び合い」の授業をさらに職員の共通理解の下、取り組んでいけるようにしていくことが必要である。共通理解することで、系統的に発達段階に応じて、話し合い、ノートのまとめ方、家庭学習との効果的な取り組みなどで、子どもたちが迷わず取り組めることが、自信を深めていくことにつながっている。だからこそ、白根源小学校のスタンダードを確立していくことが大事である。

② 生徒指導・特別支援教育体制の充実

「学校は楽しいですか?」について、全教職員が常に意識しておくべきことだと考える。その実現のためには、教職員と子どもたちの信頼関係、教職員の子どもたちへ教育的愛情、観る目(行動分析力)を高めていく必要がある。SCやSSW等の関係機関との連携を進めているだけに、そのノウハウを教職員が身に付けて様々な場面で生かしていくことが、子どもたちの自己肯定感アップにつながるので、「学び合い」の授業の取り組みと並行して取り組むことが大事である。

③ 職員とともに創り上げる学校経営・学校運営

自己評価において学校教育目標は意識されてはいるが、学校関係者評価委員の意見の通り、管理職もさらに職員に教育目標の実現を図るために、具体的に何をどのように取り組んでいくかを明確にしていく必要がある。そのためには、目標と手立てのつながりを職員に理解してもらい、取り組める体制づくりや意識改革をさらに工夫していかなければならない。職員を支えて、共に子どもたちの成長を目標に取り組んでいきたい。